

元ベ이스ターの古木克明氏も 球場施設などを視察に国東入り

昨年11月には石毛宏典氏の紹介により、元横浜ベイスターズの古木克明氏も国東市を訪問。国見町にある両翼100mの野球場などを視察しました。

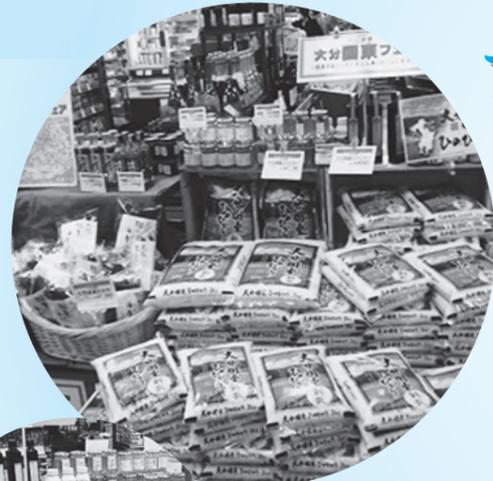
古木氏はまだ34歳。ドラフト1位の期待のスラッガーでありながら若くして引退せざるを得なかった自身の体験も踏まえて、トップアスリートのセカンドキャリアをサポートする事業の可能性について協議しました。



都市圏の消費者にも大好評 産業創出課開催の 「くにさきフェア」

産業創出課では、地域の物産を都心で販売する「くにさきフェア」を毎年開催しています。

昨年8月に東京都港区六本木の泉ガーデンで、地酒・焼酎・かまぼこ・柚子胡椒・メロン・デコポンなどを販売。9月と11月は渋谷区代官山マルシェで、米・しいたけ・カボス・栗・銀杏などを。また11月には渋谷区の明治屋広尾店・青葉台店などで、米・オリーブオイル・ジュース・柚子胡椒・乾燥わかめ・味噌・ドレッシングなどを販売し、多くのお客様に購入していただきました。



すでに 動き出している 若者たち

— settlegoプロジェクトの実際

農業での創業を目指す4人の若者、2名の地域おこし協力隊が市内各地で活躍中。プロジェクトに賛同した方も視察に訪れています。

新たな地域産業創出を目指し、 農業研修に取り組んでいる若者たち

このプロジェクトにより平成26年4月から定住を始めた若者4人は、現在「里の駅むさし」や「こねぎトレーニングファーム」で農業研修を受けながら創業や独立に向けた準備を行っています。研修終了後は、遊休農地や遊休施設などを活用して農業経営者として事業を行う予定です。



事業案件発掘や国東市産品支援を 専任とする、地域おこし協力隊の2名

平成26年8月から産業創出課に着任しているのは、大瀬昌己さんと金壮城さんの2人。市内各地の農家や商店を訪問し、課題や悩みを伺ったり、産品の情報収集、データベース作りなどを行い、定住希望の若者の受け入れについても調整を行っています。彼らの調査が若者定住に向けた貴重な資料となります。

「地域の方の優しさや明るさに触れる機会が多くあり、みなさんのお役に立ちたい」(金)、「ようやく地域のことがわかり始めたところですが、少しでも貢献できたら」(大瀬)という彼らの活動にも協力をお願いします。



(株)産業創出機構の運営する インキュベーション施設の整備

国東町鶴川にある元法務局の建物を活用し、(株)産業創出機構が運営するインキュベーション(育成)施設を立ち上げる準備が進んでいます。ここを地場の事業者の交流や新規創業の拠点として、施設運用を行う予定です。



ベースボールアナリスト 石毛宏典氏がプロジェクトを視察

元西武ライオンズのトップ選手で、日本初の独立リーグ創始者としても知られる石毛宏典氏が、昨年10月に国東市を訪問し、若者の研修風景などを視察しました。

settlegoプロジェクトの推進について、トップアスリートのセカンドキャリア(第二の職業)、という新たな可能性を模索するためです。「プロ選手が引退後も地元でスポーツ振興に携わりながら地域の産業案件を事業化できる」と語る石毛氏は、少年野球の富来タイガースの練習を視察したり、地元のみなさんや市長を交えたパネルディスカッションを行ったりしました。



【問合せ先】 産業創出課 ☎0978-72-5183